



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 045-893-4877 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 262 号

(創刊 1988.12.14)

2011.07.03

アンケート問題、住民監査請求へ 58.9% と 38.1% は大違い

平成 22 年夏、栄区が区民 3,000 人を対象に実施した区民意識調査は、「南線については重要な国家的事業であり他の高速道路とつながる利便性の高い道路である」と利点を並べた上で、南線への期待を問う誘導方式のアンケートである。その結果、「早期完成を望む 30.3%」と「東名や中央道につながる利便性への期待 28.6%」を併せて南線建設賛成が 58.9% と多数に上る結果を発表した。

この結果を受けて平成 22 年 12 月の市議会本会議で栄区選出の大桑議員が、「南線への栄区民の期待が思った以上に大きいことが分かったが、市長はどう考えるか。」と質問した。

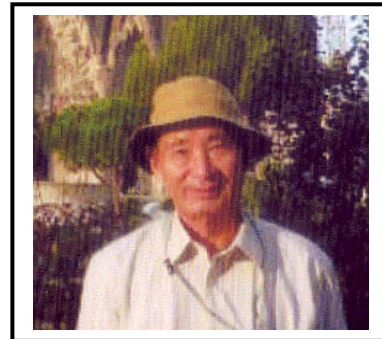
これに対して林市長は、「私も栄区民の南線の早期整備への期待が大きいことを改めて感じたので、この期待に応じて圏央道の県内他区間に遅れることなく南線整備を積極的に進めていく。」と答えた。次いで横浜市は、地元栄区民の南線への期待 58.9% という結果を、国交省や栄区選出国會議員らに報告した。更に従来から南線建設促進を行政に働きかけてきた横浜市幹線道路網建設促進協議会も、南線の本年度中に本線工事着工を控えて強力な支援体制を取り始めた。このように 58.9% という数字は恐るべき威力を発揮して、横浜市、国交省、民間支援団体を含めて南線建設促進への熱気を盛り上げている。

しかし実はこれらは間違っただータに躍らされたとんでもない動きである。と言うのは、58.9% は計算の間違いによるもので、住民らが正しい計算方法で行った結果、正しくは 38.1% であり、従って栄区民の南線建設賛成派は 58.9% の多数ではなく 38.1% とむしろ少数に過ぎないことが分かった。従って市長が

栄区民の南線早期整備への期待に応じて本事業を進めると言明したのは、区民意識調査の間違ったデータに基づく誤った判断であり、区民の意志に反するものとして当然撤回すべきである。

又、意図的か否かに拘わらず、栄区が間違っただ計算方法で区民の意思と全く逆の結果を出してこれを広く公表したことは行政として許されない失態であり、区民と市民への重大な背信行為である。よって連協(代表四名)は地方自治法第 242 条第 1 項により 6 月 6 日付で横浜市監査委員に対して住民監査請求を行った。(法都計部)

計 報



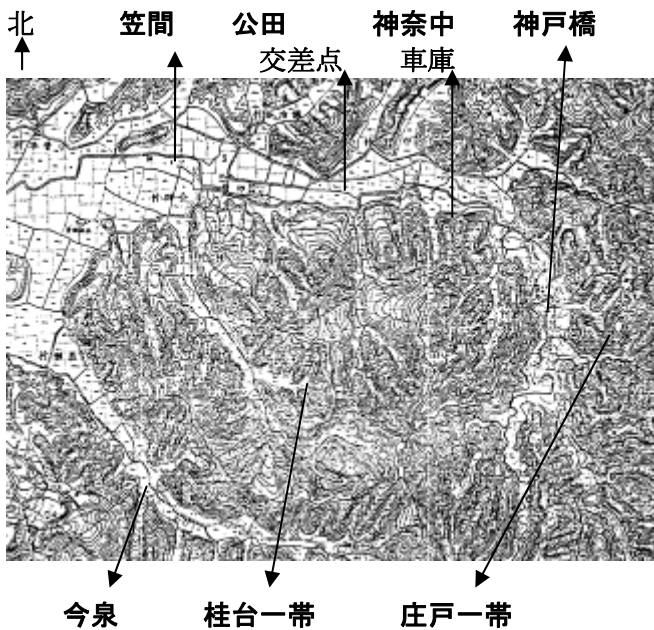
「ネオポリスの環境を守る会」代表、横地正厚氏が脳出血のため 6 月 13 日に逝去されました。享年 72 歳。

連協発足当時から中心メンバーとして困難な行政との折衝に当たり、以来 20 余年にわたり副会長、会計、事務局担当、更に地権者トラストの会事務局長など広く活動されました。

いつも笑顔絶やさぬ温かな人柄で、どうしても厳しさを伴う運動に和やかな雰囲気醸し出してくれていた横地さんの余りにも早い旅立ちは惜しんでもあまりありません。心からご冥福をお祈りするとともにこれからも私たちの運動を見守って下さることを願っています。(合掌)

滑動崩落現象とは？

明治時代の栄区地形図(下記)を見れば、宅地造成が行われた庄戸や桂台地区の旧地形がいかにか急峻な丘と深い谷であったかは一目瞭然です。(明治時代の陸軍測量部による地形図)



(環状四号線沿いは平坦だが、桂台や庄戸一帯は、等高線の混み具合から、かなり急峻な地形。)

庄戸地区や桂台地区が急峻な丘陵部を削り取り、その土で深い谷部を埋めて造成されていることは連協ニュースでも何度か取り上げています。旧来の斜面と盛土との境界面が土質的にかに脆弱であるかは容易に想像がつかますし、両者の境界面には水脈があり、言わば盛土部は水に浮いているようなものです。

3月11日の東日本大震災では、津波被害とは別に海岸から遠く離れた仙台郊外の丘陵部で、昭和50年代の造成住宅地で地滑りが起こり、土台変形、住宅破壊、床面傾斜等のため、もはや居住不能となった事例が2,100件以上と報告されています。奇しくも道路ニュース233号の仮想新報内で予言した通りの災害となりました。

水に浮いた盛土部が、地震振動により揺さぶられ、本来の地山境界部から滑り落ち、土台を含めて建物全体が被害を受けたものです。

(これを滑動崩落現象といいます。)

庄戸や桂台地区での半地下式高速道路建設

に伴い水脈が分断され、行く場を失った水は盛土部に浸み込み、更に地盤を不安定化させます。東南海地震発生の高危険な今、区内造成地で滑動崩落現象が起きる可能性は、極めて高いと言えます。滑動崩落により家屋等に被害が発生しても、全く補償されません。宅地造成業者、行政、NEXCOは何ら責任を取らないのです。

現状でも庄戸・桂台地区は滑動崩落の高危険性が高いのですが、高速道路による水脈の変化で、危険性は更に高くなってしまいます。

庄戸や桂台地区の皆様、滑動崩落が起こってから泣いても遅いのです。道路を造らせないことがせめてもの予防です。(事務局)



仙台郊外の滑動崩落現場(2011.5.31.読売新聞)

対外活動記録

- 6/06 横浜市に対し住民監査請求書を提出。(6/07 受付)
- 6/07 横浜市長に対する「横浜市ぜん息患者医療費助成制度等の実現に関する要請書」を提出。横浜及び川崎公害患者の会と共に新たな大気汚染公害被害者救済制度を求める「5・10集会」参加団体の一員として要請に参加
- 6/14 岩崎ひろし議員訪問(永田、比留間)。建築・都市整備・道路委員会委員としてアンケート問題を迫及要請
- 6/21 大気汚染公害被害者新救済制度神奈川相談会(第6回)参加
- 6/21 大気汚染・道路公害かながわ連絡会。
- 6/20~22 横浜市事業調整課に上郷公田線の説明会を3町会とともに要請(Tel)
- 6/27 上郷公田線、横環南公田地区の整備計画に関する情報開示請求(横浜市、NEXCO)